

# 日高山脈博物館運営事業報告書

第 13 号

令和 4 (2022) 年度版

# 目 次

<b>I. 日高山脈博物館の施設概要</b>	<b>1</b>
1. 施設	2
2. 館内の施設	3
3. 登録済み資料の状況	4
4. 沿革	5
<b>II. 日高山脈博物館の活動・利用状況 [令和 4 (2022) 年度]</b>	<b>10</b>
1. 組織	11
2. 活動・利用状況	12
<b>III. 資料</b>	<b>18</b>
1. 学芸員の紹介	19
2. 利用案内	21

# **I . 日高山脈博物館の施設概要**

# 1. 施設

## 館の位置と周囲の環境など

日高山脈博物館は、北海道沙流郡日高町日高地区（旧日高町）に位置しています。日高地区は、現在人口は1,300人ほどで、面積の90%以上は山林という、日高山脈西麓の町です。

日高山脈および日高地区には、明治時代以降登山や縦走が盛んに行なわれた登山の歴史、氷河が存在したことを示す氷河地形や、氷河時代からのさまざまな動植物や自然、また、平成4（1992）年に京都で開催された万国地質学会の地質現地見学コースに千呂露川流域が選ばれるなど、二つの大陸性ないし島弧性プレートの衝突によって形成された多種多様な地質がもたらす岩石・化石・鉱物、それら地質や地形に育まれる動植物を含む多くの自然環境、そしてそれらと人とのかかわりが息づいています。

このように日高山脈のもたらす自然に育まれる日高地区（旧日高町）では、昭和50年代に道立の自然系博物館を誘致する運動が起きました。誘致は成功しませんでしたでしたが、このことが後に町立で博物館を設立する原動力となり、平成11（1999）年に、日高山脈や日高地区優れた自然資源を活かした展示・研究博物館、特に岩石を中心とした道内でも唯一の施設を目指し、日高山脈館（当時の名称：平成24（2012）年に現在の「日高山脈博物館」に名称を変更）が開館しました。

## 施設・設備の概要

日高山脈博物館は、地上4階建て、延床面積513㎡、鉄筋コンクリート（RC）構造の建物です。1～3階の各階それぞれにテーマに沿った常設展示室を配置しており、常設展示室以外には、1階に学芸員執務室（研究室・事務室）、薄片室、収蔵庫、2階に特別展示室（図書室兼用）、4階に展望室を配置しています。

**設置者** 日高町

**条例** 町条例（第4号）平成11（1999）年3月18日

**開館** 平成11（1999）年6月26日

**博物館登録原簿への登録** 平成16（2004）年10月19日（登録記号番号：北博登第52号）

**博物館の種別** 総合博物館（自然史系）

**土地面積** 1,154㎡

**建物総面積** 513㎡

（展示室 常設243㎡ [1階71㎡ 2階88㎡ 3階84㎡] 特別55㎡）

（収蔵庫 25㎡）

（薄片室 14㎡）

（研究室・事務室 19㎡）

（展望室 35㎡）

（その他 122㎡）

（各階ごとの面積 1階178㎡・2階169㎡・3階109㎡・4階57㎡）

**設備** エレベーター1、トイレ（男性用、女性用、身障者用）各1

## 2. 館内の施設

### 常設展示室

常設展示は、1～3階のそれぞれの常設展示室によって行なわれ、1階では71㎡の常設展示室にて「日高山脈登山インフォメーション」のテーマ、2階では88㎡の常設展示室にて「日高山脈の成り立ち」のテーマ、3階では84㎡の常設展示室にて「日高山脈の自然」のテーマによる常設展示を行なっています。

### 特別展示室

特別展示室は、2階常設展示室の奥に位置しています。面積55㎡で、展示に用いるパネルなどの設備が保管されています。主に、特別展やテーマ展、「石・鉱物・化石のお宝鑑定会」などの特別事業を開催しています。また、当館主催の「日高山脈ネイチャーセミナー」等の教育普及事業や依頼を受託して行なう自然体験指導・研修などでの講演室、ワークショップ室などとしても利用しているほか、普段は図書室もかねており、多目的なスペースとなっています。

### 展望室

展望室は、4階に位置しています。面積35㎡で、全面ガラス張りのため、周囲の景観を見渡すことができます。周囲を山々に囲まれている盆地地形のため、残念ながら、展望室からは日高山脈を見渡すことはできません。



1階常設展示室。テーマは「日高山脈インフォメーション」。



2階常設展示室。テーマは「日高山脈の成り立ち」。



3階常設展示室。テーマは「日高山脈の自然」。



特別展示室。図書室や研修室などを兼用している、多目的スペース。



4階展望室。全面ガラス張りで、日高国際スキー場なども展望できる。

### 3. 登録済み資料の状況

自然科学資料	959 内訳 動物資料：模型（1） 植物資料：標本（13） 地学資料：展示用標本（63）模型（4）標本（878）
単行本	1,489
雑誌	3,467
図幅	562
資料類	1,567
別刷	183
写真	195
絵画	2
マップ類	300
合計	8,724

令和5(2023)年3月31日現在

## 4. 沿革

現在、日高山脈博物館の位置する日高町日高地区（旧日高町:2006年に旧門別町と合併し、現在の「日高町」となった）周辺は、二つの大陸性ないし島弧性プレートの衝突によって形成された特質的な地質を有していることが知られており、日高山脈の成り立ちのほか、プレート衝突帯を再現できる地質、それらがもたらす有用鉱床の調査など、さまざまな地質学的・岩石学的研究が行なわれてきました。

平成4（1992）年の万国地質学会（京都）の地質現地見学コース、平成6（1994）年の「古アジア海の収束と古太平洋の拡大」国内委員会の合同研修会巡検のコースに、日高町千呂露川流域が選ばれるなど、世界的にも学術的にきわめて重要な地域であることが示されています。

平成6（1994）年には、そのような地質学的・岩石学的に重要な地域に、地質博物館施設を作ろうという動きが起きました。昨今、貴重な地質を有する地域では、ジオパークなどの方法で、さまざまに地域活性化に向けた動きが盛んですが、それらを鑑みても、当時としては先進的な試みであったと考えられます。

旧日高町では、昭和50年代にも、道立の自然史博物館を誘致しようとする活動が起こるなど、地域の貴重な地質をもとに、地域を活性化しようとする基盤があったことも影響したと考えられますが、その動きを受け、町立での施設の設置に向けさまざまな構想立案や検討が行なわれ、平成9（1997）年に具体的な建築設計が完成し、平成10（1998）年に建設工事が開始され、平成11（1999）年に「日高山脈館」が開館しました。

「日高山脈館」は、町立の博物館的施設として活動を続け、平成16（2004）年には、登録博物館となりました（10月19日付：北博登第52号）。また、同年には、日本地質学会より、日高町が、「日高山脈館による地質学の普及と野外調査活動の支援」の活動にて、地質学の普及および発展に大きく貢献しているとして表彰されています。

旧日高町は、平成18（2006）年に、旧門別町との合併が行なわれ、現在の「日高町日高地区」となりましたが、「日高山脈館」は、合併後も町立の博物館としての活動を続け、平成24（2012）年には、登録博物館であることをよりわかりやすく示すため「日高山脈博物館」に名称を変更し、平成26（2018）年月には、日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」を創刊するなど、活動を根強く続けています。

平成4(1992)年	9月	万国地質学会（京都）の地質現地見学コースに日高町千呂露川流域が選出
平成6(1994)年	8月	アースサイエンス株式会社から日高町へ「日高町における地質博物館構想について」企画書提出
	9月	「古アジア海の収束と古太平洋の拡大」国内委員会の合同研修会巡検に日高町千呂露川流域が選出
平成7(1995)年	2月	アースサイエンス（株）から日高町へ「日高山脈館構想について」提案書提出
	4月	「日高山脈館構想」について部内協議
	4月	アースサイエンス（株）へ「日高町における日高山脈館構想」を委託
	6月	平成7年度第1回日高町社会教育委員の会議にて「日高山脈館構想」について協議
	6-7月	「日高町における日高山脈館構想委託業務」現地調査（アースサイエンス（株））
	7月	アースサイエンス（株）から日高町へ「日高町における日高山脈館構想」報告書提出
	9月	日高山脈館の財源の一部となる日高発電所設置に伴う電源立地促進対策交付金申請のための道資源エネルギー課ヒヤリング
	9月	電源立地促進対策交付金申請のための通産省ヒヤリング
	11月	電源立地促進対策交付金申請のための通産省ヒヤリング
	11月	日高山脈館構想配置モデル案及び根拠についてアースサイエンス（株）加藤博士に相談
平成8(1996)年	2月	電源立地促進対策交付金申請書提出
	3月	平成7年度日高町図書館・郷土資料館運営委員合同会議にて、「日高山脈館構想」について協議
	3月	日高町地質研究会設立発起人会（9名）開催
	5月	日高山脈館建設予定地取得

平成8(1996)年	7月	日高の地質を見て歩こう体験の会実施(20名参加) 日高地質研究会後援 見学地～岩内岳採石場、三岩橋周辺、岡春部川砂防ダム付近、パンケヌーシ川北電取水堰付近、幌 内沢化石包含地
	7-9月	「日高山脈館基本調査委託業務(第1次)」現地調査(アースサイエンス(株))
	9月	「日高山脈館構想」について部内協議
平成9(1997)年	3月	日高町議会運営協議会にて説明・協議
	4月	「日高山脈館構想」について部内協議(建設総予算、特別展示等の写真借用について) 日高山脈館建設準備委員会委員委嘱(10名) 第1回日高山脈館建設準備委員会会議(委員8名参加)
	6月	日高の地質を見て歩こう体験の会実施(26名参加) 見学地～鍾乳洞、ピラパーク、三号の沢 「日高山脈館構想」について加藤博士、櫻井技師と協議 『内容から人員配置は必要』
	7月	「日高山脈館構想」について部内協議(建設総予算、展示計画案について)
	8月	平成10年度日高山脈館建設に関する通産省および道との協議 第2回日高山脈館建設準備委員会会議(委員8名参加)
	9月	日高山脈館業務打ち合わせ 北海道通商産業局、通産省工業技術院地質調査所北海道支所、北海道経済部資源エネルギー課、北 海道大学山岳部OB
	9-11月	日高山脈館基本調査2委託業務 現地調査、資料収集(アースサイエンス(株))
	9-12月	日高山脈館設計委託業務(岩見田建設設計事務所)
	9月	日高山脈館設計について協議
	10月	日高山脈館建設準備委員会町外施設視察研修(委員7名参加) 日高山脈山岳センター(中札内村)、アポイ岳ビジターセンター(様似町)、アポイ岳調査研究支 援センター(様似町)
	10月	日高山脈館設計について協議
	11月	日高山脈館設計について協議
平成10(1998)年	6月	日高山脈館新築工事(平成11年3月まで)
	6-8月	日高山脈館基本調査3委託業務
	8-12月	日高山脈館展示品作成その1委託業務
	8月	日高山脈館展示工事(平成11年3月まで)
平成11(1999)年	1-3月	日高山脈館展示備品その1購入業務
	4-6月	日高山脈館展示品作成その2委託業務
	4-6月	日高山脈館基本調査4委託業務
	6月26日	日高山脈館オープン オープニングセレモニー 特別展 「日高山脈写真展」(6/26～10/24) 特別展 「地図で見る日高展」(6/26～10/24)
	7月	「今日はとことんお山のとりこ」開催(7/10～11) 自然講座「第1回 日高山脈の地質を見て歩こう体験の会」(7/25)
	8月	自然講座「第2回 日高山脈の地質を見て歩こう体験の会」(8/28～29)
	9月	「秋のパンケヌーシ岳登山会」開催(9/23)
	10月	自然講座「第3回 日高山脈の地質を見て歩こう体験の会」(10/30)
平成12(2000)年	5月	日高山脈ネイチャーセミナー2000(継続開催事業全12回:5/14～2001/3/25)
	6月	累計入館者数10,000人(6/25) 特別展「芽室岳測量100年記念展」(6/30～7/16)
	7月	特別展「大いなる山と谷～日高山脈」伊藤健次写真展(7/20～8/20)
	8月	北海道遺産地域フォーラム(8/26)
平成13(2001)年	4月	日高山脈ネイチャーセミナー2001(継続開催事業全12回:4/15～2002/3/17)
	3月	日高町生涯学習講演会 「山なんて嫌いだった～山登りで見つけた自然のすばらしさと本当の自 分」(3/21)
	8月	特別展「花とのふれあい写真展」(8/5～9/2) 特別展「市根井孝悦写真展－日高山脈・遥かなる山並み－」(8/7～19)
平成14(2002)年	3月	日高衝突帯 最新成果検討会(3/14～15)
	4月	日高山脈ネイチャーセミナー2002(継続開催事業全12回:4/14～2003/3/16) 特別展 「ヒグマが語ってくれたこと」伊藤健次写真展(4/23～5/12) 累計入館者数20,000人(4/27)
	5月	スライド上映会 「ヒグマが語ってくれたこと」(5/10)
	8月	特別展 「地球からの贈り物 日高山脈と北海道の鉱石展」(8/11～9/29)



平成15(2003)年	4月	日高山脈ネイチャーセミナー2003(継続開催事業全12回:4/19~2004/3/6)
	8月	写真展「ナキウサギの住む北海道」(8/9~9/23)
	10月	特別展「ひだかで生まれた“いし”の展覧会 ~寄贈化石・鉱物・岩石展~」(10/11~11/3) 博士に聞こう!この石な~に? ~石・鉱物・化石の鑑定会~(10/12)
平成16(2004)年	4月	累計入館者数30,000人(4/15)
	5月	日高山脈ネイチャーセミナー2004(継続開催事業全7回:5/22~2005/3/13)
	7月	'04移動博物館「刷って、伝える-印刷再発見-」(北海道開拓記念館移動展)(7/3~8)
	9月	日本地質学会第111回総会にて、日高町が、「日高山脈館による地質学の普及と野外調査活動の支援」の活動にて、地質学の普及および発展に大きく貢献しているとして、学会表彰
平成17(2005)年	10月	博物館法における「登録博物館」となる(10月19日付:北博登第52号) 博士に聞こう!この石な~に? ~石・鉱物・化石の鑑定会'04~(10/24)
	3月	「山坊主の日高山脈写真展」(3/19~5/8)
	5月	日高山脈ネイチャーセミナー2005(継続開催事業全6回:5/29~2006/2/19)
平成18(2006)年	10月	博士に聞こう!この石な~に? ~石・鉱物・化石の鑑定会'05~(10/10)
	1月	写真展「石を調べるはかせの一日~研究者の見た日高山脈~」(1/29~3/31)
平成19(2007)年	6月	日高山脈ネイチャーセミナー2006(継続開催事業全6回:6/11~2007/2)
	8月	累計入館者数40,000人(8/8)
	10月	博士に聞こう!この石な~に? ~石・鉱物・化石のお宝鑑定会'06~(10/29)
	2月	写真展「日高山脈北部の高山植物~幌尻岳を中心に~」(2/10~5/13)
	3月	小野昌子学芸員が退職(31日)
平成19(2007)年	4月	東豊土学芸員(現職)が着任(1日)
	6月	日高山脈ネイチャーセミナー2007(継続開催事業全6回:6/30~2008/3/1)
	7月	特別展「海の石山の石展」(7/25~8/31)
	9月	日本地質学会第114年学術大会(2007年・札幌)見学旅行(K班)見学地点および巡検案内(9/12~13のうち1日目)
平成20(2008)年	11月	博士に聞こう!この石な~に? ~石・鉱物・化石の鑑定会'07~(11/3)
	5月	特別展「北海道のアンモナイト展」(5/20~8/31)
	6月	日高山脈ネイチャーセミナー2008(継続開催事業全6回:6/8~2009/4/12) 特別展「北海道のアンモナイト展」関連事業 化石レプリカを作ろう(6/14, 6/21, 6/29, 7/12, 7/13, 7/19, 7/20, 7/21, 7/27, 8/2, 8/16, 8/17, 8/30, 8/31)
	8月	写真展「日高山脈写真展」(8/7~10/31) 特別展「北海道のアンモナイト展」関連事業 化石採取に行こう(8/10)
	11月	累計入館者数50,000人(11/3) 博士に聞こう!この石な~に? ~石・鉱物・化石のお宝鑑定会'08~(11/30)
平成21(2009)年	5月	日高山脈ネイチャーセミナー2009(継続開催事業全6回:5/31~2010/3/6)
	7月	日高山脈館開館10周年記念事業「ベンケヌーシ岳登山会」(7/4~5)
	8月	日高山脈館開館10周年記念事業「ベンケヌーシ岳登山会~岩崎元郎さんと登る~」(8/1~2:荒天のため中止)
	10月	日高山脈館開館10周年記念事業「日高の地質を歩く」(10/4) 日高山脈館開館10周年記念事業「日高の自然を語る」(10/18)
平成22(2010)年	11月	博士に聞こう!この石な~に? -石・鉱物・化石のお宝鑑定会2009- (11/8) 特別展「山の絵画展」(11/15~2010/3/31)
	4月	「日高山脈館だより」創刊(以後継続発行)
	5月	特別事業「宝石すくい」(5/1~5, 5/8~9, 7/31, 8/1, 8/8, 8/15) 特別事業「日高山脈館クイズラリー」(5/8~10, 7/31, 8/1, 8/8, 8/15)
	6月	日高山脈ネイチャーセミナー2010(継続開催事業全6回:6/13~2011/3/5)
	8月	日高の石ころ図鑑作り(8/7, 8/14)
平成23(2011)年	11月	博士に聞こう!この石な~に? -石・鉱物・化石のお宝鑑定会2010- (11/7)
	4月	特別展「小惑星探査機「はやぶさ」が採取した鉱物と日高の鉱物 ~どこが似てる?どこが違う?~」(4/29~8/31) 特別事業「宝石すくい」(4/29~5/5) 特別事業「クイズラリー」(4/29~5/5)
	5月	日高山脈ネイチャーセミナー2011(自然科学講座・岩石地質講座を併設し、全12回の継続事業:5/29~2012/3/3)
	7月	特別事業「アンモナイトレプリカづくり&クイズラリー」(7/30~31, 8/6, 8/13~14)
	8月	累計入館者数60,000人(8/23)
	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2011(11/19)

平成24(2012)年	4月	「日高山脈博物館」に名称変更(4/1) 「日高山脈館だより」を「日高山脈博物館だより」に名称変更(以後継続発行) 特別事業「GW宝石すくい」(4/28~5/6)
	6月	日高山脈博物館自然体験事業2012(日高山脈ネイチャーセミナー2012[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2012、日高自由研究サポーターを併設し、全13回の継続事業:6/17~2013/3/10)
	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2012(11/25) ネイチャーセミナー写真展(11/9~3/31)
平成25(2013)年	4月	GW宝石すくい(4/27~29, 5/3~6)
	6月	日高山脈博物館自然体験事業2013(日高山脈ネイチャーセミナー2013[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2013を併設し、全9回の継続事業:6/30~2014/3/7)
	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2013(11/16) 累計入館者数70,000人(11/20)
平成26(2014)年	5月	特別事業「GW宝石すくい」(5/3~6)
	6月	日高山脈博物館自然体験事業2014(日高山脈ネイチャーセミナー2014[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2014を併設し、全9回の継続事業:6/21~2015/3/7)
	10月	日本地質学会北海道支部2014年日高巡検「日高変成帯北部~神居古潭帯の横断」見学地点および巡検案内(10/4~5)
平成27(2015)年	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2014(11/16)
	1月	特別展・寄贈資料展「日高の翠の石ーアオトラと日高ヒスイー」(1/31~3/28)
	5月	特別事業「GW宝石すくい」(5/2~6)
平成27(2015)年	6月	日高山脈博物館自然体験事業2015(日高山脈ネイチャーセミナー2015[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2015を併設し、全9回の継続事業:6/20~2016/3/5)
	9月	特別事業「SW宝石すくい」(9/19~23)
	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2015(11/14)
平成28(2016)年	12月	累計入館者数80,000人(12/4)
	4月	特別事業「GW宝石すくい」(4/29~5/8)
	6月	日高山脈博物館自然体験事業2016(日高山脈ネイチャーセミナー2016[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2016を併設し、全9回の継続事業:6/25~2017/3/11)
平成29(2017)年	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2016(11/26)
	4月	特別事業「GW宝石すくい」(4/29~30, 5/2~7)
	6月	日高山脈博物館自然体験事業2017(日高山脈ネイチャーセミナー2017[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2017を併設し、全9回の継続事業:6/24~2018/3/10)
平成30(2018)年	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2017(11/19)
	4月	日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」を創刊(オンライン・ジャーナルとして、以降継続発行) 特別事業「GW宝石すくい」(4/28~30, 5/3~6)
	5月	累計入館者数90,000人(5/4)
平成31・令和元(2019)年	6月	日高山脈博物館自然体験事業2018(日高山脈ネイチャーセミナー2018[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2018を併設し、全9回の継続事業:6/15~2020/2/15)
	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2018(11/18)
	4月	特別事業「GW宝石すくい」(4/27~5/6)
令和2(2020)年	6月	日高山脈博物館自然体験事業2019(日高山脈ネイチャーセミナー2019[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2019を併設し、全9回の継続事業:6/24~2018/3/10)
	11月	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2019(11/10)
	4月	新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の全国拡大ならびに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止の観点に基づき、4月20日~「緊急事態宣言」解除(5月25日)~5月27日まで臨時休館 ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大予防の観点に基づき、「GW宝石すくい」「石・鉱物・化石のお宝鑑定会2020」などは中止。
令和2(2020)年	6月	日高山脈博物館自然体験事業2020(日高山脈ネイチャーセミナー2020[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2020を併設し、全9回の継続事業:6/6~2021/2/27) ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大予防の観点に基づき、6回が中止。
	8月	累計入館者数100,000人(8/9)

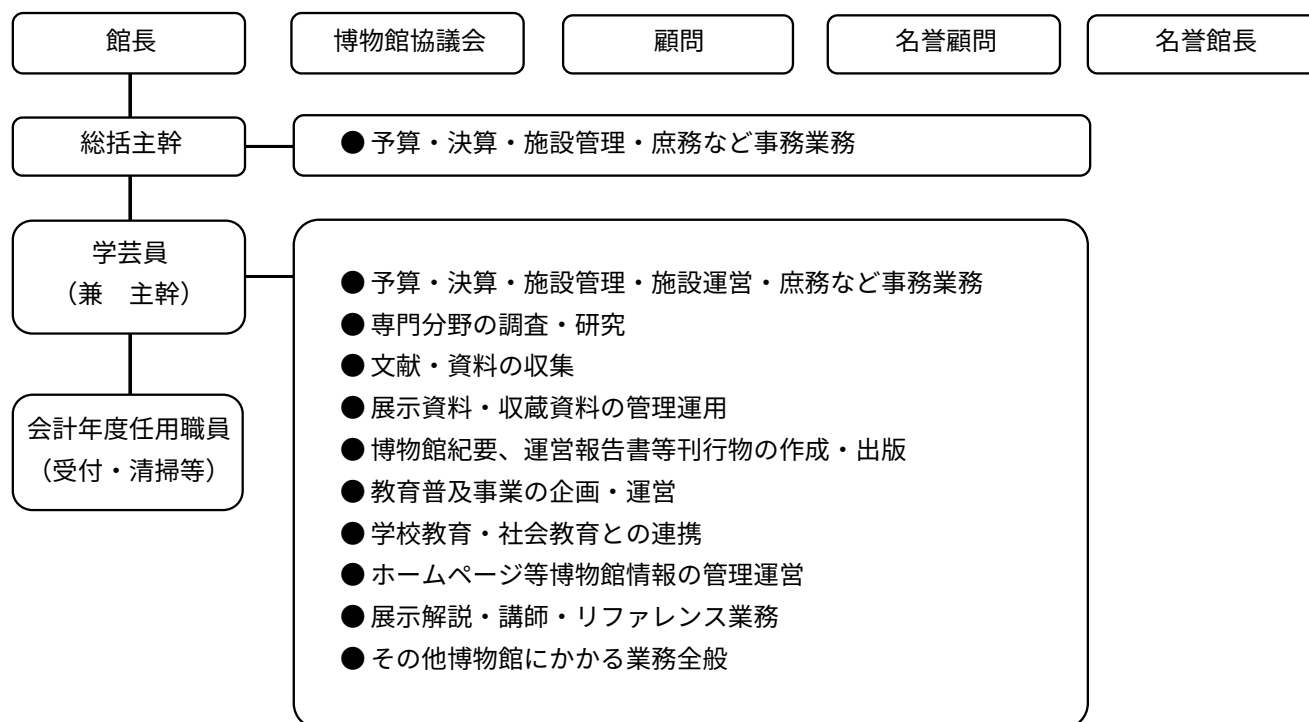
令和3(2021)年	5月	新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の発出に基づき、5月17日～「緊急事態宣言」解除（6月20日）まで臨時休館
	6月	日高山脈博物館自然体験事業2021（日高山脈ネイチャーセミナー2021[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2021を併設し、全9回の継続事業：6/12～2022/3/12） ※ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大予防の観点に基づき、5回が中止。
	7月	「日高山脈博物館運営事業報告書」を、従来のCD-Rによる発行からオンライン発行へ切り替え。ISSNを取得。
令和4(2022)年	8月	新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の発出に基づき、8月28日～「緊急事態宣言」解除（当初9月12日、その後9月30日まで延長）まで臨時休館 ※ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大予防の観点に基づき、「GW宝石すくい」「石・鉱物・化石のお宝鑑定会2021」などは中止。
	12月	博物館1階（展示室）の照明取替（LED化）工事（～2022年1月）
	4月	特別事業「博物館クイズラリー」（4/29～5/1、5/3～8）
令和5(2023)年	6月	日高山脈博物館自然体験事業2022（日高山脈ネイチャーセミナー2022[自然科学講座・岩石地質講座]、日高山脈自然体験隊2022を併設し、全8回の継続事業。ただし、日高山脈自然体験隊2022は、日高町民限定事業とするため、リーフレットには掲載せず、生涯学習課で募集した。：6/28～
	8月	水道管破損による日高地区断水のため、臨時休館（8/19～21） ※ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大予防の観点に基づき、「GW宝石すくい」「石・鉱物・化石のお宝鑑定会2021」などは中止。
令和5(2023)年	2月	博物館1階（展示室以外）の照明取替（LED化）工事（～3月）

## **II . 日高山脈博物館の活動・利用状況 [令和4(2022)年度]**

# 1. 組織

## 組織図【令和5(2023)年3月31日現在】

日高山脈博物館の組織や事務分掌などは以下のとおりです。



名誉館長	番場 猛夫 (故人、元北海道大学名誉教授)
名誉顧問	渡辺 暉夫 (故人、元北海道大学教授)
顧問	中川 充 (北海道総合地質学研究センター) 加藤 孝幸 (アースサイエンス株式会社代表取締役会長)
博物館協議会委員	会長 川村 信人：北海道総合地質学研究センター (堆積学堆積岩研究) 委員 村井 雅之：ゆうふつ原野自然情報センター主宰 委員 石黒 誠：自然写真家・元富良野市博物館学芸員 委員 中家 響：北海道森林管理局日高北部森林管理署森林技術指導官 日高山脈博物館設置及び管理条例第103号第6条 (平成18年3月1日) に基づき、定数6名以内、任期2年。
館長 (兼務)	関本 裕昭 (日高町教育委員会生涯学習課長、日高山脈博物館長)
総括主幹 (兼務)	小関 正徳 (日高町教育委員会生涯学習課総括主幹)
学芸員 (兼 主幹)	東 豊土 (地質学・岩石学) [日高図書館郷土資料館 主幹も兼務]
会計年度任用職員	加藤 千明

令和5(2023)年3月31日現在

## 2. 活動・利用状況

開館日数 令和4(2022)年度：303日

令和4(2022)年8月19～21日の3日間、水道管破損による日高地区断水のため臨時休館となった以外は、通常通り開館しました。

入館者数 令和4(2022)年度：3088人

	町内					町外					月計	開館日数
	小学生以下	中学生	一般	団体	計	小学生以下	中学生	一般	団体	計		
4月	0	3	76	26	105	15	6	121	0	142	247	26
5月	4	1	85	0	90	55	4	243	26	328	418	26
6月	0	0	50	66	116	13	1	205	0	219	335	26
7月	0	3	80	0	83	34	3	314	0	351	434	27
8月	3	0	73	0	76	40	11	259	25	335	411	23
9月	4	7	63	4	78	28	5	319	47	399	477	26
10月	6	0	52	0	58	18	9	207	0	234	292	26
11月	0	0	52	0	52	1	0	85	0	86	138	26
12月	0	0	35	0	35	2	0	19	0	21	56	24
1月	0	0	39	0	39	3	1	22	0	26	65	22
2月	0	0	32	0	32	5	1	44	0	50	82	24
3月	3	0	58	0	61	4	1	67	0	72	133	27
合計	20	14	695	96	825	218	42	1905	98	2263	3088	303

### 教育・研究等の利用

年度	月	人数
令和4年度	4月	8
	5月	10
	6月	14
	7月	11
	8月	18
	9月	23
	10月	5
	11月	28
	12月	2
	1月	2
	2月	2
	3月	3
合計		126

－ 主たる機関名 －			
北海道大学	東京工業大学	京都大学	静岡大学
山形大学	環境省	北海道博物館	
新冠町郷土資料館	むかわ町立穂別博物館		
日胆地区博物館等連絡協議会	日高小学校		
門別小学校	富川小学校	日高北部森林管理署	
日高高校	南富良野町教育委員会		
(独)国立日高青少年自然の家	アースサイエンス株式会社		
NPO 北海道総合地質学研究センター			
公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター	北海道教育局		
日高教育局	北海道新聞社静内支局		
NPO 法人どんころ野外学校			
			ほか

## おもな団体利用

年月日	利用団体
R4.4.13	日高高校生
R4.5.26	南富良野町千里大学
R4.6.29	富川小学校5年生
R4.7.15	日高管内図書館振興協議会
R4.9.7	静岡大学
R4.9.11	東京工業大学、京都大学
R4.9.13	北海道大学
R4.9.30	日高小学校2年生
R4.10.22	NPO法人どんころ野外学校

## 講演、自然体験指導、研修受け入れ、館内案内など

依頼文などをいただき、講師派遣を承諾したものを列挙しています。令和4（2022）年度は、12件の依頼があり、すべて承諾しました。すべての依頼における講師は、学芸員が務めています。

### ・日高高校1年生 宿泊研修講師

依頼先：日高高校

内容等：博物館内展示解説など、26名、2022年4月13日

### ・南富良野町千里大学「社会見学」講師

依頼先：南富良野町教育委員会（南富良野町千里大学）

内容等：博物館内展示解説、さんごの沢流域における地質巡検の講師、26名、2022年5月26日

### ・小学校「ふるさと学習」日高ヒスイ学習会 講師

依頼先：日高町立門別小学校・日高町立日高小学校（5・6年生）

内容等：日高ヒスイ学習会における講師（リモート中継を通じた学習会にて、地質・岩石・鉱物の解説など）、30名程度、2022年6月3日

### ・「日高山脈周辺の地質について」 講演講師

依頼先：環境省自然環境局国立公園課

内容等：日高山脈周辺の国立公園化にかかる視察のなかで、日高山脈周辺の地質に関する解説・講話、アポイ岳登山の中での地質解説など、35名程度、2022年6月10日

### ・北海道博物館協会学芸職員部会オンライン研修会「岩石相談会」 講師

依頼先：北海道博物館協会学芸職員部会

内容等：博物館などに持ち込まれるであろう岩石資料について、岩石の同定の方法や、実際に送られてきた岩石をどういう観点で見るとかなどの講話、15名程度、2022年6月17日

### ・第5学年宿泊学習 講師

依頼先：日高町立富川小学校

内容等：博物館内の解説・案内。クイズラリーを実施、56名程度、2022年6月29日

### ・Kidsクラブ「宝石探し体験」 講師

依頼先：日高町教育委員会生涯学習課

内容等：日高ヒスイの探し方や、ペンケユクトラシナイ沢での転石の観察や同定、19名、2022年7月

29日

・静岡大学地球科学科長期巡検（授業）の指導援助

依頼先：静岡大学地球科学科

内容等：日高山脈博物館内の展示解説、および沙流川での転石の観察や同定、37名程度、2022年9月7日

・日高小学校2年生 職業インタビュー（生活单元？）

依頼先：日高小学校

内容等：日高山脈博物館内の見学や学芸員の仕事について、8名程度、2022年9月30日

・野外巡検「石の観察について」講師

依頼先：日胆地区博物館等連絡協議会・日高管内社会教育研究協議会 学芸員部会

内容等：令和4年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会 兼 日高管内社会教育研究協議会学芸職員部会研修会、沙流川流域において転石の観察や同定方法などについての展示解説、11名程度、2022年11月11日

・静岡大学地球科学科授業（地球科学課題研究・卒業研究）の指導援助

依頼先：静岡大学地球科学科

内容等：岩内岳の南麓（採石場及び林道周辺）における地質巡検の案内など、10名程度、2022年11月13日

・「日高山脈周辺の地質や岩石について」講演講師

依頼先：帯広百年記念館

内容等：帯広百年記念館 博物館講座「大地が語る十勝の自然史」にて講演、50名程度、2022年12月17日

## その他普及・広報、研究活動

- ・近隣のフィールド（サンゴの沢、ペンケユクトラシナイ沢、沙流川など）における試料採取
- ・日高山脈博物館 自然体験事業 2022 リーフレット発行（10,000部を印刷し、道内の博物館園・図書館・ジオパーク等に配布）
- ・日高山脈博物館だよりの発行（No. 73～78）
- ・岩石同定や地質解説等のリファレンス 多数
- ・”岩石の宝庫”子どもも夢中 日高町立博物館の体験講座人気：北海道新聞 2022年8月25日朝刊（日高版）16面。

## 他の関連施設・団体などとの連携

● 日胆地区博物館等連絡協議会

- ・ 総会 (5/25・白老町)
- ・ 研修会 (11/14・日高町；当館主催)
- ・ 館長会議・拡大役員会 (2/14・苫小牧市)
- ・ 研修会 (11/10・11 洞爺湖町)



- 北海道博物館協会
  - ・ 第 60 回北海道博物館大会 (7/14 ~ 15・士別市・欠席)
  - ・ 第 46 回学芸職員部会 総会・研修会 (10/6 ~ 7・釧路市・欠席)
  - ・ 令和 4 年度ミュージアム・マネジメント大会 (10/21 ~ 22・小樽市・欠席)
- 日高山脈登山会議
  - ・ 総会 (6/15・日高町)
- 日本地質学会北海道支部 幹事 (博物館関係) (2012 年 4 月より)
- 日胆地区博物館等連絡協議会 理事 (2021 年 4 月より)

## 主催教育普及事業

今年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止の観点に基づき、以下の方針を考え、事業を検討しました。

- ・ 狭い屋内や屋外において、長い時間、密集・密接となることを避けた  
(例：屋内で事前学習などは行わない、参加可能人数や規模の縮小、広い空間での開催 など)
- ・ まとまったのバス等での移動はできる限り避けた  
(例：可能な限り、現地集合・現地解散とし、バス等は極力使用しない。どうしても使用する場合は、バスの管理側とも協議をし、バスの運用が可能であれば、座席をあげ定員の 30 ~ 40% で移動するなど)
- ・ 食事がともなうことを避けた  
(例：昼食を用意するような開催時間を設定しない など)

これらの条件を満たすことができる場合のみ開催し、一方で、まん延防止等重点措置区域の参加者が多い場合など、少しでも不安な点などがある場合は、中止としました。

### 日高山脈博物館 自然体験事業 2022

日高山脈がもたらした自然が豊富な日高地区およびその周辺で、学術的継続的な内容の事業を目指すことにより、町内外の方々に、日高の自然を学習してもらいながらも、自然と親しんでもらう目的で、開館当初から継続して開催している事業です。小学生から大人まで、「日高の自然を いっぱい遊んで しみじみ学ぶ」をテーマに、開催しています。

日高山脈博物館 自然体験事業 2022 は、「日高山脈ネイチャーセミナー 2022 自然科学講座」「日高山脈ネイチャーセミナー 2022 岩石地質講座」「日高山脈自然体験隊 2022」の大きく 3 つの講座に分けて開催しました。「日高山脈ネイチャーセミナー」は、「日高山脈自然体験隊」に比べて、比較的学術的要素が多く、より学びのエッセンスの強い内容となっていますが、講座の内容によっては、専門家と当館学芸員の講師 2 人体制で、説明の補助を行ったり、質問できる機会を増やしたりすることで、さまざまな疑問や質問に答えられるような体制をとっています。

とくに、岩石や地質に関する講座は、自然体験事業の中でも多くの講座を開催しています。地質や岩石に関する講座については、北海道内でも開催している博物館は少なく、地質や岩石の登録博物館である当館としては、大変意義深いものとなっています。

「日高山脈自然体験隊 2022」は、生涯学習課生涯学習グループとの完全な合同事業とし、町内の参加者（とくに小学生など）に限定して開催しました。このため、道内博物館等に配布する年間事業案内のリーフレットやホームページには記載していません。参加者の募集などは生涯学習グループで行ないました。

【日高山脈ネイチャーセミナー2022 自然科学講座】

募集人数：10名程度

日時	題目	講師（敬称略）	参加人数	内訳			
				町内 大人	町内 小人	町外 大人	町外 小人
7月4日 (日)	日高の昆虫観察入門	村井 雅之 (ゆうふつ原野自然情報センター)				中止	
10月16日 (日)	秋の森探検	石黒 誠（自然写真家）	9	-	9 (9)	-	-

※ 参加人数の（）内の数は、日高高校生参加者の内数

※ 小人は、高校生までの参加者、大人は、小人以上の参加者。以下同じ。

【日高山脈ネイチャーセミナー2022 岩石地質講座】

募集人数：10名程度

日時	題目	講師（敬称略）	参加人数	内訳			
				町内 大人	町内 小人	町外 大人	町外 小人
6月25日 (土)	日高の岩石観察入門	東 豊土 (日高山脈博物館)	10	1	-	6	3
7月31日 (土)	おたから石と岩石図鑑の 作り方	東 豊土 (日高山脈博物館)	12 <sup>*1</sup>	-	-	6	6
8月6日 (土)	日高のジオサイトへ行こう	加藤 孝幸 (アースサイエンス(株)・当館顧問)	8	-	-	6	2
8月28日 (日)	いろんなジオサイトへ行こう	川村 信人 (北海道総合地質学研究センター)	6	-	-	6	-
9月11日 (日)	岩石を顕微鏡で見よう	東 豊土 (日高山脈博物館)	8 <sup>*2</sup>	-	-	5	3

\*1：申込み16名（COVID-19対策による少数開催のためお断りをした） \*2：申込み12名（前同）

【日高山脈自然体験隊2022】

募集人数：10名程度

日時	題目	講師（敬称略）	参加人数	内訳			
				町内 大人	町内 小人	町外 大人	町外 小人
1月13日 (金)	スノーシューで冬の森を歩こう	石黒 誠（自然写真家）	14	-	14	-	-

## 宝石すくい体験会

## COVID-19 関連のため中止

ゴールデンウィーク中に開催予定でしたが、宝石すくいは中止とし、通常開館ならびに博物館内の展示物にまつわるクイズに答えて正解すると、宝石すくいで用いる宝石をプレゼントするという「博物館クイズラリー」を開催しました。

## 石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2022

## COVID-19 関連のため中止

11月ごろに開催の予定でしたが、中止となりました。「石・鉱物・化石のお宝鑑定会」は、開館当初から年1回開催してきましたが、令和2（2020）年から、COVID-19 関連によって中止となっています。

## 刊行物

### 日高山脈博物館 自然体験事業 2022 リーフレット

- ・紙媒体にて10,000部印刷発行し、道内博物館園・図書館・ジオパークなどに配布
- ・オンラインにて公開

### 日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」第4号

- ・PDF媒体にてオープンアクセスのオンラインジャーナルとして発行。 ・ISSN 2434-0715
- ・オンラインにて公開 (<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/bulletin.html>)
- ・掲載論文

庄司絵利加・秋葉文雄・柴田 樹・岩間崇将・萩野 穰・吉村祐花・佐藤南緒・本山 功, 2023, 北海道日高地方波恵川における平取断層付近の中新統珪質微化石層序. 日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」, 4, 1-15.

Shoji, E., Akiba, F., Shibata, M., Iwama, T., Hagino, M., Yoshimura, Y., Sato, N. and Motoyama, I., 2023, Miocene siliceous micro-biostratigraphy near the Biratori Fault, Hae River, Hidaka District, Hokkaido, Japan. Bulletin of the Hidaka Mountains Museum "Hidaka Mountains Researches", 4, 1-15.

### 日高山脈博物館運営事業報告書 第12号

- ・PDF媒体にてオンライン発行。 ・ISSN 2436-5297
- ・オンラインにて公開 (<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/op-report.html>)

### 日高山脈博物館だより No.73~78

- ・日高町広報誌「広報日高」に掲載。2カ月おきに発行。
- ・オンラインにて公開 (<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/museum-letter.html>)

### III. 資料

# 1. 学芸員の紹介

## 配置されている学芸員

氏名	東 豊土 AZUMA Toyoto
学位等	修士 (2005 年 3 月 東海大学) 博士後期課程単位修得退学 (2011 年 3 月 北海道大学)
専門分野	地質学・岩石学 とくに沈み込み帯の地質学・岩石学 (主にオフィオリティックな岩石と前弧域マントルかんらん岩・蛇紋岩など)
最近の主な研究テーマ	・蛇紋岩起源ロジン岩の形成過程 (日高ヒスイを含む) ・蛇紋岩化作用と Ca, Na, Al などの交代作用のかかわり ・縄文時代の遺跡から出土する遺物の石質と形成過程や分類について (考古学との地質学・岩石学的なかかわり)

など

## 近年の主な業績

### 論文など

- 加藤孝幸・東 豊土, 2021, 北海道占冠村赤岩青巖峽の低温沈殿性蛇紋石脈. 地球科学, 75, 202-202.
- 加藤孝幸・東 豊土, 2021, 北海道平取町岩知志の蛇紋岩体と泥岩のテクトニックな接触関係. 地球科学, 75, 201-201.
- 東 豊土, 2021, いわゆる「麦飯石」の岩石学的調査の依頼と「岩石名」および「石の名前」について. 日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」, 3, 1-8.
- 東 豊土, 2021, 日高山脈博物館での自然体験活動の取り組み. 北海道の自然, 59, 35-39.
- 東 豊土・加藤孝幸, 2019, ロジン岩から考えられる神居古潭帯南部超苦鉄質岩体の蛇紋岩化作用の条件とテクトニックな関係. 日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」, 2, 1-17.

ほか

### 学会発表など

- Okamura, S., Tomioka, A., Katoh, T., Tatsuda, S., Azuma, T., Sakai, T., 2018, Chloritized rocks associated with serpentinite from the Kamuikotan Tectonic Belt, North Japan; implications for source and manufacturing of the beads and stone tools from the Paleolithic - Jomon period. Learning from Our Ancestors: Using Modern Earth Science Methods to Understand Ancient Practices Posters, AGU Fall Meeting 2018, GH11B-0916.
- 岡村 聡・富岡 明・加藤孝幸・立田 理・東 豊土・堺 俊樹, 2018, 神居古潭帯の蛇紋岩にともなう緑泥石岩 - 縄文遺跡から出土する緑色玉類の原産地の可能性 -. 日本地質学会第 125 年学術大会講演要旨, 125
- 東 豊土・加藤孝幸・和田恵治・斉藤晃生・佐々木克久, 2016, 幸太郎石: 蛇紋岩に捕獲された, 高压変成作用を受けた蛇紋岩関連オリストストローム. 日本地質学会第 123 年学術大会講演要旨,

202-(セッション ID: R4-P-1)

- 東 豊土・加藤孝幸・和田恵治, 2016, 幸太郎石 - 高压変成作用を受けた蛇紋岩関連オリストストローム. 日本地質学会北海道支部平成 28 年度例会 (個人・招待講演会) 講演要旨集, 12-13
- 東 豊土・加藤孝幸, 2014, ロジン岩からみた蛇紋岩化作用の条件と糠平超苦鉄質岩体のテクトニクな位置付け. 日本地質学会北海道支部 2014 年日高巡検 日高変成帯北部 ~ 神居古潭帯の横断討論会『古第三紀以降のテクトニクスの未解決問題+』.
- 東 豊土・加藤孝幸・斉藤晃生・和田恵治・佐々木克久, 2014, 日高ヒスイを含む蛇紋岩源高温型ロジン岩の岩石学的特徴. 日本地質学会第 121 年学術大会講演要旨, 267-(セッション ID:R13-P-5)

ほか

### 講師・講演依頼など

※ 令和 4 (2022) 年度については、「Ⅱ. 日高山脈博物館の利用・活動状況」にも記載。

日高山脈周辺の地質や岩石について：帯広百年記念館 博物館講座「大地が語る十勝の自然史」2022 年 12 月 17 日 帯広百年記念館

授業（地球科学課題研究と卒業研究）の指導援助：静岡大学地球科学科授業（地球科学課題研究・卒業研究）2022 年 11 月 13 日 静岡大学地球科学科

授業（地球科学科長期巡検）の指導援助：静岡大学地球科学科長期巡検 2022 年 9 月 7 日 静岡大学地球科学科

北海道博物館協会学芸職員部会オンライン研修会「岩石相談会」：北海道博物館協会学芸職員部会オンライン研修会 2022 年 6 月 17 日 北海道博物館協会学芸職員部会

日高山脈周辺の地質について：日高山脈周辺の国立公園指定に係る現地視察 2022 年 6 月 10 日 環境省自然環境局国立公園課

山形大学理学部地球科学コース「野外巡検：北海道見学旅行」：日高山脈博物館 館内解説 (2020/9/29) およびチロロ川周辺における地質・岩石の解説 (2020/9/30) 山形大学理学部

シーソラプチ川および空知川本流（南富良野町落合地域）の河原の石や露頭について：シーソラプチ川や空知川にて、転石や露頭、周辺地質の解説および調査試料採取など（「シーソラプチ水の旅ハンドブック～南富良野町落合の博物誌～」作成への筋道を固める）2020 年 9 月 23 日 石黒誠、NPO 法人どんころ野外学校

日高山脈の変成岩研究の動向—日高山脈より西に産出する、蛇紋岩とロジン岩に関する研究を中心に—：平成 30 年度埋蔵文化財担当職員研修会 I「地域の埋蔵文化財—日高地域を対象に—」2018 年 12 月 6 日 (公財) 北海道埋蔵文化財センター

東京大学地震研究所(武井・平賀研)・名古屋大学大学院(環境学研究科岩石鉱物学研究室)北海道巡検：岩内岳のかんらん岩、蛇紋岩などの露頭の案内および解説等、博物館内の解説 2018 年 10 月 16 日 東京大学地震研究所(武井・平賀研)・名古屋大学大学院(環境学研究科岩石鉱物学研究室)

ほか多数

### その他の業績など

詳細は、reserachmap (<https://researchmap.jp/>) にも、随時記載している。

## 2. 利用案内

### 見学案内

- 開館時間** [4～10月] 10：00～17：00  
[11～3月] 10：00～15：00  
※ 閉館時間の30分前までにご入館ください。
- 休館日** 毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、直後の平日が休館日）  
年末年始（12月29日～1月5日）
- 入館料** 大人 200円 小人（小学生～高校生） 100円  
※ 未就学児童は無料  
※ 日高町民は来館者名簿への記入の上、無料  
※ 団体料金（10名以上）は、それぞれ半額
- 注意事項** 職員の指示に従うことのほか、特に以下のような秩序を乱す行為は禁じられています。  
・ 建物、附属設備または展示資料を汚損し、またはそれらのおそれのある行為  
・ 他人に迷惑を及ぼし、またはそのおそれのある行為  
・ 館内で飲食し、または喫煙すること

### 研究設備の利用

岩石切断・研磨、薄片作成、偏光顕微鏡観察が可能です。研究利用などの場合かつ学芸員が立ち会える場合にのみ利用を許可しています。

- 設置機材** 岩石カッター3台：大（一次）カッター1台、小（二次）カッター2台  
電動研磨台（#200・#400、#800）、ダイヤモンド砥石（#150、#300、#800）  
鉄板（#800）、ガラス盤（#1000、#1500、#2000、#3000、#4000、#6000）  
ホットプレート（細かい温度調節可能）  
偏光顕微鏡2台（1台は倍率変換・写真撮影可能）  
実体顕微鏡1台
- 研磨剤** カーボランダム：#200、#400  
グリーンカーボランダム：#800、#1500  
ホワイトアランダム：#1000、#2000、#3000、#4000、#6000
- 注意事項** 職員の指示には、必ず従うこと。  
研究設備使用中に発生しました事故等におきましては、当館は一切責任を負いません。  
これら研究機材を使用したことがない方には、利用を許可しない場合があります。

## 交通案内

- 所在地** 〒055-2301 北海道沙流郡日高町本町東1丁目297番地の12
- 経路** [公共交通機関] ・JR 占冠駅から日高町営バスに乗り、終点「日高町役場総合支所」下車ののち、徒歩2分
- [自家用車] ・道東道占冠ICより、国道237号を日高方面へ。国道237号と国道274号の交差点を左折し、道の駅「樹海ロード日高」に駐車ください。占冠ICからは、15~20分ほどです。

## その他の案内

### 日高山脈博物館ウェブサイト

<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/>

### 学芸員がお引き受けできること

- ・館内解説案内
  - ・講演・授業講師依頼
  - ・博物館周辺の地質案内
  - ・岩石の同定、周辺の地質に関することなどのリファレンス      ほか
- ※ 時間や参加者層によって、その都度内容を検討いたしますので、特に、館内解説案内、講師依頼や地質案内は、必ず事前連絡をお願いします。
- ※ 他業務との兼ね合いなど、ご希望に添えない場合や、お引き受けできない場合があります。
- ※ 学芸員の予定などは、上記ウェブサイト中「博物館スケジュール」のページにも記載していますので参考になさってください。

博物館スケジュール <https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/museum-schedule.html>



日高山脈博物館運営事業報告書 第13号 令和4(2022)年度版

**発行**

---

2023(令和5)年 10月

**編集・発行者**

---

日高山脈博物館

〒055-2301 北海道沙流郡日高町本町東1丁目297-12

TEL & FAX: 01457-6-9033

<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/>